



元中学校教諭。複数の会社で勤務し、(株)LoiLo在籍時は、授業デザインに関する研修会を多数開催。2021年に(株)わけわけを設立し、先生たちの授業づくりのサポーターとして活躍中。

株式会社わけわけ 代表取締役 野中 健次さん

元小学校教諭。大分県教育委員会指導主事、県教育センター指導主事を経て、2019年に(株)Doit設立。大分県を拠点に、県内外でGIGAスクール構想の推進やマネジメント、教育活動のアドバイザーとして活躍中。



株式会社 Doit 代表取締役 土井 敏裕さん

## 進むべき方向へ しっかり進む舞鶴の教育

全国で広がる教育格差

舞鶴の教育はトップレベル

GIGAスクールが始まる前の学校教育のレベルは、全国どこへ行っても差はありませんでした。しかし、GIGAスクールが始まってからは全国約1,700ある自治体の教育格差がどんどん広がってきています。教育が昔とさほど変わらない自治体もあれば、GIGAスクールに力を入れて、先生のもの考え方や子どもの成長も明らかに変わってきている自治体もある。新しい教育をしていくためには人員も必要ですし、なにより目標に向かって皆が一緒に走っていく体制が必要です。GIGAスクールが始まって現場任せで、これまでと変わらない自治体も実はたくさんあるんです。

そんな中、舞鶴市の教育、GIGAスクールは全国的に見てトップレベルに進んでいると思います。教育長をはじめ教育委員会の皆さんのGIGAスクールへかける思いが強く、これほど全指導主事がGIGAスクールに対して同じ方向を見て動いている、そして現場の先生や学校へのサポートがこれほどしっかりできている自治体は全国でもほとんどありません。舞鶴のGIGAスクールは日本一なんじゃないかと思うほどです。そして、その行政の熱意は現場にも伝わっていると思います。うまく進んでいない自治体は現場から行政へ批判的な意見も出がちで、研修をしても面白くなさそうに帰っている人が多いのですが、舞鶴は

研修前後に指導主事と先生たちの関係も良好で、研修の帰り際に「今日もありがとうございました」と笑顔で帰って行かれることが多いです。

子ども達が安心して学べる環境

授業を見ていても、どの学校もすごく良い雰囲気です。先生と子ども達の距離感や関係性が良く、子ども達が安心して学べていると感じました。教室にギスギスした感じもなく、ICTを上手に活用して子ども達の欲求が満たされる授業をされていると思います。

舞鶴のGIGAスクールに関する施策や先生たち、授業内容の変化は進むべき方向にしっかりと進んでいます。私のような外部の人間も上手に使っていただきながら、今後もより良い子ども達の学びを充実させていってほしいと思います。

## 専門家から見た

## 舞鶴市の教育行政

課題はタブレットの活用法

GIGAスクールが始まって2年ほどたちますが、まだまだ全国的に課題は多いと感じています。タブレットを活用した授業というのは、子ども達が情報を調べたり、友達と共有したり、書き出して可視化することで話を深めたりといういろいろな活用の仕方があります。しかし、多くの学校はそうした使い方ができていない、紙の置き換えになっていく状況です。これまで配布していたプリントをデータで送って提出させる、そういう使い方がメインの先生がまだまだたくさんいます。効率化という点では良いと思います。授業は変わらない、授業を改善することが大事です。

生まれだしたワクワクする授業

仲間づくりが大切

舞鶴市もこうした課題はあるかもしれませんが、モデル校の先生たちはすごく良い授業をされていますね。モデル校という仕組みを作って、1年間研究した成果だと思っています。学校が一つになって授業改善していこうという機運ができたので、モデル校としてワクワクする学びに挑戦しようと思う人が増えたのだと思います。また、授業づくりリーダー研修を受けた先生もすごく良い授業をされている人が多いです。舞鶴市全体としては日常的なタブレットの活用はクリアし、授業改善はこれからという、他の自治体と似た状況はありますが、その中でも、ワクワクするすごく良い授業をする先生がたくさん生まれてきています。

仲間づくりが教育を進化させる

ただし少し気になったのは、ICT担当者が少し一人で張り過ぎていくことです。もっとうるんな人を巻き込みながら、みんなが変えていこうという機運を高めるべきだと感じました。直接ICTとは関係なくても、関係性を作ることで、ノウハウをいつでも共有でき、みんなと一緒に授業を作っていくという状況になれば、自然とICTのノウハウは蓄積されます。巻き込みたい人に役割を与えて一緒にやって成功させていく。その成功体験が次の行動を生むので、いろんな人に役割を振っていきながら、その人を仲間にして、その人自身が勝手に動き出して行けるような流れにしたい。そのための仲間づくりのノウハウを身に付けることが舞鶴の教育をさらに一段階進化させると思います。

### モデル校として成長した1年

PBL(課題解決型学習)に力を入れている中、昨年度はモデル校として野中さんからアドバイスや研修を受け、授業改善に取り組みました。ICTを使うことが得意な先生がいれば苦手な先生もいますが、研修では基本的なタブレットの使い方から子どもの興味を引くようなアプリ

### 青葉中学校 教諭 滝本 幸広さん

の使い方まで教えてもらい、皆授業に役立てられています。実際に行ったPBLの授業をオンラインで見返して、野中さんや指導主事と検証する中で新たな発見もありました。子ども達が主体的に学べるよう、今後も学校全体で授業改善を行っていきたいと思います。

### 子どもの可能性を広げることができる

GIGAスクールが始まり、授業にタブレットが導入されたことで、子ども達が自分で調べたことを簡単に共有し、それを皆で話し合うことが簡単になりました。国語の授業で新聞を作る際もネットからぱっとフリー素材の画像や写真を入れることができ、子ども達もイメージ

### 中筋小学校 教諭 米澤 千尋さん

を形にしやすくなったと思います。やりたいことがあったら、まずは自分で検索してみて、先生はそのサポートをする。子ども達が主役となり、自分で学び、自分で表現・実現してみるという授業ができるので、子ども達の可能性を広げる教育ができていると思います。

